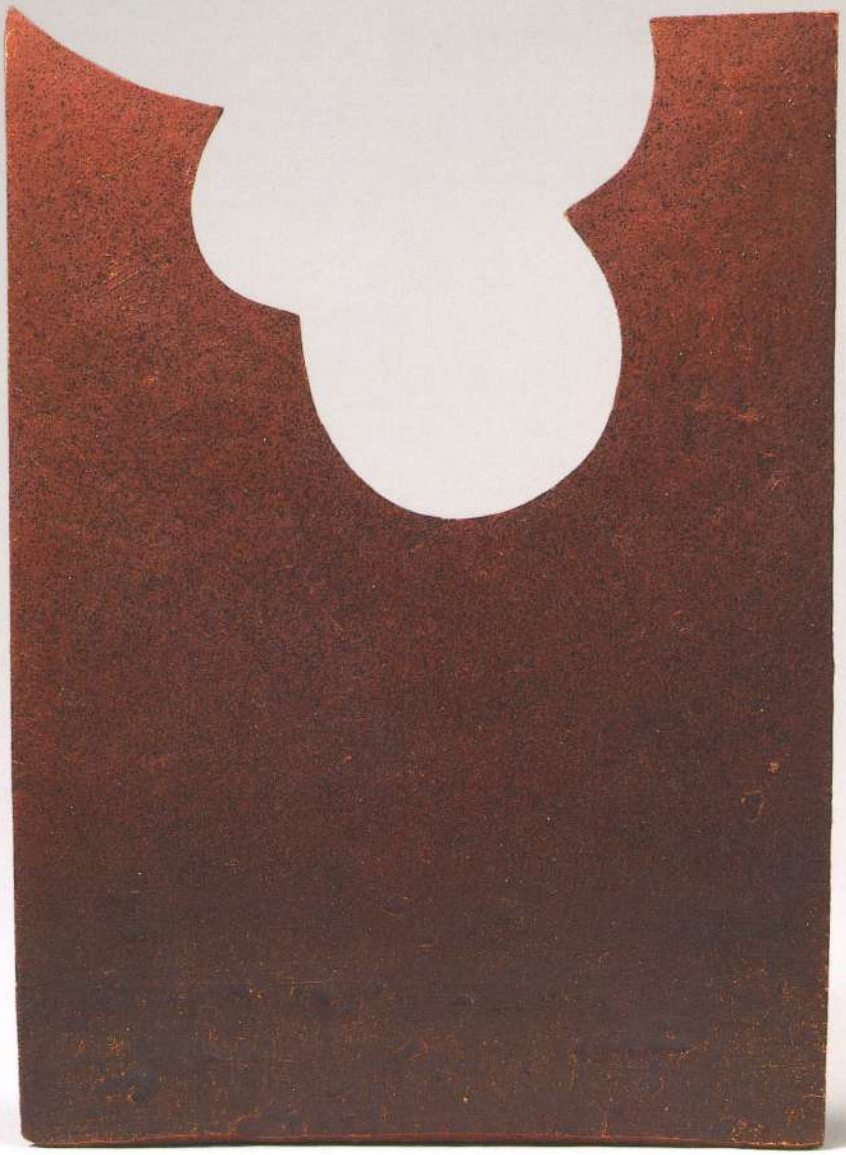
「使う陶」から
「観る陶」、
そして「詠む陶」へ



泥象（でいしょう）
鈴木治の
世界

SUZUKI OSAMU: Image in Clay

2014 7.26[土]－8.31[日]

開館時間／10:00-18:00　金曜日は20:00まで（入館は閉館30分前まで）　休館日／月曜日　入館料／一般900円、高校・大学生700円、小・中学生400円

● 20名以上の団体は100円引き　● 障がい者手帳等持参の方は100円引き、その介添え者1名は無料

主催／東京ステーションギャラリー（公益財団法人東日本鉄道文化財団）、日本経済新聞社　協賛／野崎印刷紙業株式会社

東京ステーションギャラリー

JR東日本

「使う陶」から
「観る陶」、
そして「詠む陶」へ

1

2

3

4

5

6

7

8

泥象（でいしょう）
鈴木治の
世界

SUZUKI OSAMU: Image in Clay

2014 7.26[土]－8.31[日]

9

10

11

12

戦後の日本の陶芸界を牽引した陶芸家、鈴木治（1926-2001）。千家十職の永樂工房で轆轤（ろくろ）職人をつとめた父に轆轤の手ほどきを受け、戦後本格的に陶芸の道に入った鈴木は、とりわけ1948年に八木一夫、山田光らとともに結成した前衛陶芸家集団「走泥社（そうでいしゃ）」の中心的存在として知られます。鈴木は作陶の思想を「泥象」、すなわち「土のかたち」という言葉に託し、土と火による造形を追求し続けました。赤い化粧土を施した焼締（やきし）めと、清らかな青白磁（せいはくじ）のふたつの技法を主軸とする鈴木の作品には、馬や鳥などの動物や自然現象に着想を得た、穏やかにして鋭いイメージが豊かに広がります。その長年の功績から、1999年には陶芸界から初となる朝日賞を受賞しました。

「〈使う陶〉から〈観る陶〉へ、〈観る陶〉から〈詠む陶〉へ」。鈴木がある作品のシリーズとともに発表したこのフレーズは、自らの足跡を語ったものとも読めます。本展は没後初めての大規模な個展として、初期から晩年の未発表作品までを含む約140点を紹介します。今なおみずみずしい鈴木の作陶の輝きを、どうぞ心ゆくまでお楽しみください。

1〈黒釉花瓶〉1958年、2〈白釉花瓶〉1958年、3〈作品〉1954年、4〈数の土面〉1963年　福島県立美術館、5〈縞の立像〉1971年　樂翠亭美術館、6〈馬〉1971年　京都国立近代美術館、7〈花の馬〉1980年　8〈風の区域〉1986年　資生堂アートハウス、9〈酒注（とり）〉1992年以降、10〈酒碗（スワン）〉1992年以降、11〈水滴〉1974年、12〈走れ三角〉1980年、表面：〈消えた雲〉1982年

●関連イベント

朝の鑑賞会

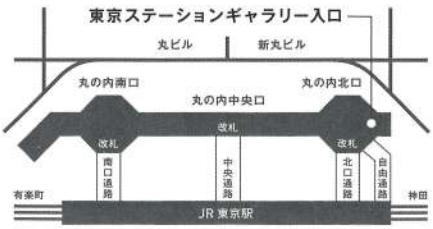
開館前の展示室で、作品について解説いたします。

講師：諸山正則（東京国立近代美術館主任研究員）
日時：① 8月2日（土）、② 8月10日（日）　9:30～10:00
定員：各回20名
参加費：無料（要別途入館料）
申込方法：電話[03-3212-2485]宛に参加希望日、ご氏名、電話番号をご連絡ください（開館時間中のみ受付）。
● 各回定員になり次第受付終了します。
● イベント後は自由に展覧会をご観覧いただけます。

レンガ・タッチ&トーク

レンガが特徴的な当館のたてものについて解説します。

日時：8月2日（土）、9日（土）、23日（土）　15:00～（約20分）
● 1階エントランス集合
定員：各回15名
参加費：無料（要別途入館料）
● 当日1階受付にてお申込みください。



次回以降の展覧会
● DISCOVER, DISCOVER JAPAN:「遠く」へ行きたい　9月13日–11月9日
● 東京駅開業百年記念　スペシャル・オープン・ウィーク　11月18日–30日
● 開業百年記念展 東京駅100年の記憶　12月13日–2015年3月1日

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1
Tel.03-3212-2485
http://www.ejrcf.or.jp/gallery/